

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 29 年 5 月 21 日 報告者：中根 昌洋

行事種別	研究会	行事番号	170001054	
開催日	平成 29 年 5 月 13 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	リップルスクエア (シスメックス株式会社 名古屋支店) (所在地 名古屋市)			
テーマ	細胞診の精度管理			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	刈谷豊田総合病院	中根 昌洋	技師	
講師	<p>検査センターにおける精度管理の取り組み 株式会社東海細胞研究所 牛丸 一樹</p> <p>日本臨床細胞学会認定施設の精度管理 豊田厚生病院 末武 祐介</p> <p>正しい細胞判定をするための標本作成 中部労災病院 宮地 努</p>			
内容	<p>牛丸一樹講師より、自施設での取り組みについて細かく説明していただいた。Quality management system がしっかり構築されており、組織内の業務の運用を確実にするとともに、業務内容の継続的な改善を図る事により、顧客の要望と患者ケアを優先した臨床検査及び関連サービスが提供されていた。末武祐介講師からは、日本臨床細胞学会施設認定制度の説明と研究班員の自施設での取り組みについて説明していただいた。細胞診は、診療方針や患者の予後に重大な影響を及ぼすため、綿密な精度管理により臨床検査としての信頼性が常に担保されなければならない。日本臨床細胞学会が推奨する細胞診精度管理ガイドラインを基に日常的に試薬管理や検体処理法、染色の向上に努め精度管理を徹底することが重要である。宮地努講師より、検体別にポイントを説明していただいた。検体採取者の教育。検体の性状にあった標本作製法の選択。速やかな検体処理。標本作製者と細胞検査士とのコミュニケーションも大切である。</p> <p>参加者からも自施設の取り組みの紹介や精度管理に対する質問、意見交換が活発に行われた。他施設の取り組みを知ることで、精度管理の重要性と取り組み方の理解が深まった。非常に有意義な研究会であった。</p>			
参加者	総数：46 名 (会員 46 名、非会員名、賛助会員 名、学生 名、その他 名)			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 29 年 9 月 16 日 報告者：橋村 正人

行事種別	研究会	行事番号	170008501	
開催日	平成 29 年 9 月 9 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	18 時 00 分
場所	名古屋第二赤十字病院 研修ホール (所在地 名古屋市)			
テーマ	造血器腫瘍(リンパ系腫瘍)における血液検査及び病理検査			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	名古屋第二赤十字病院	長田 裕之	技師	
講師	<p>骨髓像の読み方 造血器腫瘍を中心に 豊橋市民病院 近藤 由香 技師</p> <p>造血器腫瘍の細胞像・組織像 藤田保健衛生大学病院 川島 佳晃 技師</p> <p>フローサイトの基礎 豊橋市民病院 内田 一豊 技師</p> <p>造血器腫瘍 (リンパ系腫瘍) における染色体検査 SRL 株式会社 高森 栄一 氏</p>			
内容	<p>造血器腫瘍の診断に必要な一連の検査を学ぶ研究会を行った。近藤技師は血液担当技師の立場から「骨髓像の読み方 造血器腫瘍を中心に」というテーマで、骨髓標本の種類と特徴、標本観察部位やポイントなどを実際の標本を提示されながら、分かりやすく説明していただいた。その後、実際の症例を美しい写真と共に解説していただいた。川島技師は病理担当技師の立場から「造血器腫瘍の細胞像・組織像」をテーマに、骨髓塗抹標本と病理のクロット標本を並べて、違いなどの解説をしていただいた。また、リンパ節においては細胞像の読み方のポイントを説明していただいた。内田技師は「フローサイトの基本」をテーマに、フローサイトの原理から基本的な考え方、また実際の症例についてどのように解釈するか講演していただいた。フローサイトではゲーティングをする場所が違っていると診断が変わるため、ゲーティングが非常に大切である。そのため、フローサイトを行うには、かなりの熟練が必要な検査であると理解した。最後に、高森氏には「造血器腫瘍における染色体検査」をテーマに、染色体検査の基本に始まり、G-band 法、FISH 法の結果の解釈、それぞれの検査のメリット・デメリットについて講演していただいた。</p> <p>今回は、血液検査と病理検査の両方に関係する骨髓やリンパ節について、4 名の講師に分かりやすく解説していただき理解が深まった。非常に多くの方に参加していただき、有意義な研究会であった。</p>			
参加者	総数：109 名 (会員 106 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 1 名、 その他 2 名)			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 29 年 10 月 25 日 報告者：橋村 正人

行事種別	基礎講座	行事番号	170013169	
開催日	平成 29 年 10 月 22 日 (日)			
時間	開始	9 時 00 分	終了	16 時 00 分
場所	名古屋大学医学部保健学科 (所在地 名古屋市)			
テーマ	免疫染色の基礎			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	名城病院 橋村 正人 技師			
講師	免疫染色における検体の取り扱い 愛知県がんセンター中央病院 柴田 典子 技師 肺癌治療と免疫染色 アジレント・テクノロジー株式会社 延崎 亮 氏 免疫染色のコツ 小牧市民病院 藤田 智洋 技師 迅速免疫染色と電界攪拌染色装置 西尾市民病院 中村 広基 技師			
内容	免疫染色の基礎講座を行った。柴田技師は免疫染色に適した病理組織標本作製のポイントを、コンパニオン診断を含めてお話をしていただいた。特に免疫染色を行う上で固定が重要とのお話があり、美しい標本写真と共に解説していただいた。アジレント・テクノロジー株式会社様には、肺癌の分類と特に話題の PD-L1 についての解説していただいた。癌細胞には人の免疫力を抑え込む仕組みがあり、その一つに PD-L1 があり T 細胞と結合して、癌細胞への攻撃をやめさせる。その PD-L1 を患者様が持っているかを調べるのに免疫染色を使う。免疫染色の判定によって治療が変わること分かり、免疫染色の精度管理や手技の大切さが理解できた。藤田技師は「免疫染色のコツ」をテーマに、病理細胞班員へのアンケートと多くの免疫染色の検討結果を提示していただいた。他施設の免疫染色の現状や、自施設との違いが理解でき非常に有益であった。午後からは実際に電界攪拌染色装置を使用して、迅速免疫染色を染める実習を行った。通常は反応に一時間かかるところを、10 分と短時間で染色することが出来た。今後、術中迅標本作成時にも活用できる可能性があることが分かった。そして、免疫染色のみならず検査を行う上で重要なマイクロピペットの取り扱いの講義と、実際にマイクロピペットを使用しての分解清掃の実習を行った。今まで知らなかったマイクロピペットの取り扱いや、内部構造を知る良い機会となった。今回は、台風接近による悪天候の中多くの方に参加していただき、免疫染色の基礎を理解できた基礎講座であった。			
参加者	総数：59 名 (会員 39 名、非会員 名、賛助会員 15 名、学生 2 名、 その他 3 名)			
共催、後援など				

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 29 年 12 月 22 日 報告者：橋本 克訓

行事種別	研究会	行事番号	170055671	
開催日	平成 29 年 12 月 9 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	リップルスクエア (シスメックス株式会社 名古屋支店)			(所在地 名古屋市)
テーマ	知っておきたい、消化器内視鏡と画像診断			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	名古屋大学大学院 医学系研究科	橋本 克訓	技師	
講師	消化管腫瘍に対する内視鏡診断と治療 名城病院 消化器内科 内視鏡部長代行 水谷 太郎 先生 画像診断の基礎 名古屋大学大学院 医学系研究科 医療技術学専攻 医用量子科学講座 島本 佳寿広 先生			
内容	<p>「知っておきたい消化器内視鏡と画像診断」というテーマで 2 名の医師を講師として招聘し講演会を行った。初めに名城病院・消化器内科の水谷太郎先生に「消化管腫瘍に対する内視鏡診断と治療」に関してご講演いただいた。内視鏡の歴史といった機器の事や食道から肛門に至る消化管の実際の症例 (内視鏡像) を供覧していただいた。さらには内視鏡的粘膜切除術 ; Endoscopic mucosal resection : EMR) や内視鏡的粘膜下層剥離術 (Endoscopic submucosal dissection: ESD) によってポリープやがん組織を切除する治療法をその適応や実際の施術例を供覧しながら分かりやすく解説していただいた。講演の最後に内視鏡医の立場からポリープなどの内視鏡検体の切出し方の重要性についてご指導をいただいた。2 つ目の講演は名古屋大学大学院医学系研究科の島本佳寿広先生に「画像診断の基礎」というテーマでレントゲンから最新の分子イメージングなど様々な画像診断装置 (モダリティ) の原理、応用を教授していただいた。画像診断で使用されるデジタル画像の階調は TV などの一般的なデジタル画像とは異なることや、画像診断で用いられる専用モニターは TV や一般的な PC モニターとは異なる機能が付与されており、専用モニターを用いて診断することが望ましいことなど、デジタル時代の画像診断の現状を詳細に解説していただいた。また、細胞診と関りが深い乳腺、甲状腺の代表的な疾患の超音波画像を供覧していただいた。</p> <p>今回の講演会では、内視鏡検査と画像診断はともに病理診断・細胞診と同様な形態学的な検査であることを実感した。また、内視鏡、画像診断ともに機器、モダリティの進化が目覚ましく微小な病変の発見が可能になり、このような病変に対する精度の高い病理診断、細胞診断の提供が我々の責務であると痛感させられた講演会であった。</p>			
参加者	総数：44 名 (会員 42 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、 その他 2 名)			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：平成 30 年 2 月 22 日 報告者：橋村 正人

行事種別	研究会	行事番号	170063771	
開催日	平成 30 年 2 月 10 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	株式会社カーク本社ビル 5F 会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	平成 29 年度愛臨技精度管理調査報告			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	国家公務員共済組合連合会 名城病院		橋村 正人 技師	
講師	<p>精度管理調査報告 細胞部門</p> <p style="text-align: right;">医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 中根 昌洋 技師</p> <p>精度管理調査報告 病理部門</p> <p style="text-align: right;">公立陶生病院 柚木 浩良 技師</p> <p>病理医による組織診断の進め方</p> <p style="text-align: right;">独立行政法人労働者健康安全機構</p> <p style="text-align: right;">旭労災病院 病理診断科部長 小野 謙三 先生</p>			
内容	<p>平成 29 年度愛臨技精度管理調査報告の研究会を開催した。最初に中根技師より細胞部門の精度管理調査報告を行った。各設問について鑑別症例を提示されながら詳しく解説された。今回の細胞部門の精度管理調査では、全ての施設が A 評価と非常に優秀であったとの報告がなされた。次に、病理部門の精度管理調査報告が柚木技師よりなされた。今年度も、フォトサーベイ形式による病理学および病理技術の基礎的知識の確認をする設問であった。各設問について解りやすく解説された。評価対象外設問として昨年と同様に、HE 染色と HE 染色のアンケートが行われその報告がなされた。今回はヘマトキシリンをメインに評価された。各施設によって色合いの違いが大きいが、診断に問題となる施設は無かったとの報告であった。そして、5 月に行われる医学検査学会で、2 年間行った HE 染色について報告発表されるとのことでした。最後に、病理医の診断法、病理医のリクルート、病院における病理部門の在り方について、小野先生より詳しくお話があった。病理組織の診断は正常との対比が大切で、正常な標本を多く検鏡することが重要とのことでした。また、現状の病理医の数は非常に少なく、これから病理医になる人を増やす努力が必要とのことでした。先生のお話より、病理医の現状が分かり今後の病理を考える良い機会となった。</p> <p>病理細胞部門は今後ますます遺伝子診断が増えていく中で、プレアナリシス、アナリシスの精度管理が特に重要となってきます。今後も精度管理調査を進めていき、施設間差の是正に努めていくことが重要だと再認識した研究会であった。</p>			
参加者	総数：58 名 (会員 58 名、非会員名、賛助会員 名、学生 名、 その他 名)			
共催、後援など				